ながうたひろのかい

長唄比路の會

平成29年入会

◆設立（平成4年）

平成4年、「長唄比路の會」を設立。社団法人長唄協会演奏会、又関西松永会に毎年出演。地元徳島に於ては、門弟の年1回の演奏会、県内各地での芸能祭活動に参加。又県内外でのイベント参加等、地方での長唄普及に努めている。

◆代表者

まつながわさひろ
松永和佐比路

6歳より琴、地唄三味線を習い、13歳より長唄三味線を故稀音家四郎辰師に、長唄を故吉住小隆司師に師事。四郎辰師の「辰巳会」の会員として、発足当時の邦楽大会にも出演。両師匠没後、故松永和佐次郎師に師事。昭和63年、松永和佐比路名を許される。和佐次郎師没後、現在は松永派家元八世松永忠五郎師に師事。

和佐比路６歳の頃

初めて三味線を手にして弾く。
最初の師匠は母であった。

◆邦楽大会出演の記録

第49回 子ども・学生の部「滝流し」
第50回「勧進帳」

◆会派について

初代松永忠五郎は水戸の出身、武家とも謡の師であったという説もある。天明、寛政の長唄を代表する人で、明和8年11月（1771）市村座が初出演。安永2年正月よりタテ唄。同3年「二人椀久」の「筒井筒」で絶賛を博し、今日までその形が伝承されている。寛政7年（1796）松永和楓と改名。以後247年。その間家元名が和楓名、鉄五郎名忠五郎名と受け継がれ、現在は東京赤坂に於て、八世松永忠五郎が受け継ぎ、全国の松永派の門弟の指導及び、長唄協会の理事として長唄会の今後の難問等に取り組み、長唄の普及に努めている。

◆稽古場

松永和佐比路
徳島市八万町中津浦23
088（622）1313
徳島市中徳島町1
088（652）8231

〔松永和佐比路〕

長唄協会演奏会関西公演（和佐比路 前列中央）

平成15年9月18日国立文楽劇場に於いて。

「第34回徳島市芸術祭」

平成18年2月26日　徳島市文化センターで行われた。
長唄比路の會として出演し「越後獅子」を演奏する。

「家元八世松永忠五郎喜寿記念
松永直矢改メ四代目松永忠三郎襲名　長唄演奏会」

平成29年9月30日　国立劇場小劇場で行われた。
長唄比路の會として出演し「鷺娘」を演奏する。

「松永和佐比路還暦記念　長唄演奏会」

平成21年11月22日ふれあい健康館で演奏後、
家元様はじめ、助演いただいた師匠方と一緒に記念撮影。

三味線や弟子によせる熱い思い

師匠は、ご自分の思いを次のように温かく、さりげなく語ってくださいます。

「私は三味線が大好きだから、御弟子さん達にも、三味線をもっともっと好きになってほしい。そうなってもらえないとしたら、私は師匠失格！」

それぞれに年齢も性別も違う私達は、それぞれの個性を生かして、上手くなれるよう、楽しくお稽古をしております。

年1回の演奏会「活気に満ちたゆかた会」

毎年夏に「ゆかた会」が行われます。1年間のお稽古の成果を、お客様や社中の方々にご披露する日です。弟子達は、和佐比路師匠に熱心にご指導頂き、お稽古を積み重ねていきます。時には、泣いたり笑ったり、必死になったりし、みんなで励まし合っています。

当日は、緊張感が高まった中で演奏しますので、出番が終わるとほっとします。家元様や師匠方の演奏を聞かせて頂き、本物のすばらしさに触れさせて頂ける場面では、言葉にならない程の感動でうっとりしています。

お客様をお迎えしての演奏会終了後、懇親会が行われます。おいしい料理を頂きながら、開放感に包まれての会話が弾みます。歌あり踊りあり、とても熱気に満ち溢れています。家元様との力の入ったジャンケン大会、参加者全員での阿波踊り等、盛りだくさん。みんなが心を一つにする楽しいひとときです。

今後も、師匠の三味線や弟子によせる熱い思いに応えられるよう、日々精進していきたいと思っています。（弟子　松永和佐和代）